

グループホーム あおきの里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「福祉・人権・環境・平和・教育は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指します」地域の皆様、どなたでもご利用できるように理念をつくりあげている。 事業所全体で地域に根づいたホームとなるように、アピールしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日の申し送りで必ず復唱し、ミーティングでも代表者が理念に触れ、職員一同確認している。入居者のことを考え実践している。 理念の内容、意味等職員が理解をさらに深められるように繰り返し伝えていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ご家族には、入居前、訪問時など、お話をしている。 今後は地域の行事等参加したり、見学等いただき理念等広めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		入居者の方と一緒に散歩に出かけたとき、近所の方からお花や野菜などいただくことがある。また、近医の病院受診等などのときにあいさつをかわし、事業所の紹介等行っている。 より多くの皆様に知っていただけるように、努めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の小学校より運動会参観のご招待をいただき、民生員の方と社会資源について情報交換を行っている。 自治会の行事に参加し、もっと地域の皆様へお知らせしたい。

グループホーム あおきの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の皆様へ学習会などは行っていないが、随時相談を受け、社会資源の情報や、認知症の方への対応など、アドバイスさせていただくこともある。</p>	<p>地域の皆様へ学習会などができるよう、知識の向上に努め、開催できることを目標にしたい。</p>
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ミーティングにおいて、職員に自己評価、外部評価の勉強会を行った。</p>	<p>まだ力が足りていないので、さらに勉強会等を開き、改善に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、事業所の概要や行事など説明。報告で終わらないよう、いろいろな助言を得て、回数を増やせるよう努めている。</p>	<p>地域の皆様へ参加しやすい日時を案内して定期的に行っていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>長寿介護課、福祉課へ行き来する機会も多い。市の職員様からのご相談、ご紹介をいただくことが多く、事業所からも報告、相談等行っている。</p>	<p>今後も、市とは連携を図って、地域の皆様へのお手伝いを積極的に取り組んでいきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>ミーティングにおいて、勉強会を開き、職員全体が理解できるようにした。事業所において3名の方がご利用されている。また、必要時、ご家族にも、このような制度があることをお話ししている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修の参加、職員の勉強会でも取り入れ、職員一同虐待防止に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束、心の拘束をしない。「心こそ大切なれ」という、当事業所のモットーを忘れずさらに実践していきたい。</p>

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけ、ゆっくり説明を行い、理解・納得を得るように努めている。</p>		<p>引き続き、契約でトラブルのないように分かりやすい説明を目指していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満等は、職員ならびに、当事業所ケアマネージャーがお聞きし、社会福祉協議会の職員の方の訪問時にも聞いていただいている。</p>		<p>市へ介護相談員受け入れの申し込みをしているので、今後意見、助言ををいただき、運営に活かしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、サービス担当者会議などで状態のご報告、月初めに御請求書と一緒に手紙やホーム便り等添えて郵送等している。金銭出納帳に記載、月初めにコピー郵送、面会時に確認のサインいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所の説明時に苦情処理機関の説明を行っている。また、面会時、サービス担当者会議などでご家族の意思表出を促している。</p>		<p>今後も、面会や電話を取り次いだときには、必ず声かけし、不満や苦情等がないかをお尋ねしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常日頃や、リーダー会議、ミーティングにおいて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p>		<p>今後も代表者、管理者、主任、ケアマネージャーが皆の意見や要望、提案を聞きスタッフ一丸となって取り組めるように努めていきたい。また、代表者、は職員はもちろんやリーダーの意見、提案も聞く機会を設け働きやすい環境づくりに努めていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者、ケアマネージャは、シフトに入らない時もあるので、欠勤者や、病院介助等あっても柔軟な対応ができる。また、新人入社時などシフトを現職者と重ねてつくよう努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の皆様の為にも、職員の固定を図り、異動がある時は各ユニット一人ないし、二人に留めている。最近では退職者はいない。また、入浴介助は1階・2階から職員2名で介助するため、違う階の職員でも、入居者の身体状況など把握できる。</p>		<p>職員の異動は最小限にとどめ、なじみある関係作りを深めていきたい。</p>

グループホーム あおきの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>当事業所は年齢・性別・資格・経験は不問で募集を行っている。また、地域の方の雇用に積極的に取り組んでいる。資格・経験がない方は、仕事をしながら、ヘルパー講習へ行かれるような環境づくりに努めている。また、おどりや、絵手紙、書道など得意な職員もいる。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>事業所の理念を活かし、実際に取り組んでいけるよう、常日頃より話している。</p>	<p>今後は、人権学習などに参加できるよう予定を立てていきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月一度の勉強会(研修報告含む)、ヘルパー講習で、技術・知識の向上に努めている。</p>	<p>外部からの講習依頼や、外部研修への参加が多くできるよう取り組んでいきたい。段階をおって、スケジュールをたて、研修に取り組んでいきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括センターの勉強会に参加、他事業所との交流が深められる場となっている。不明な点はお尋ねしたり、居室の空き状況など情報交換を行っている。</p>	<p>今後も地域の事業者と連携を図って、サービスの質を向上させたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日頃より、職員の意見や提案、悩み等聞けるようにしている。また、時には、職員との交流を図り親睦の場をもうけている。</p>	<p>悩み、相談は随時聞くようにし、ストレスを緩和できるようにしたい。また、職員自身もポジティブに考えられるようなアドバイスができればと考える。</p>

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は当事業所の看護師兼任ケアマネージャーでもあり、職員の勤務状況を把握している。また、その都度、報告を受けている。職員に目標等記入してもらい、課長、主任が面談実施。アドバイス等行って、運営者は報告を受けている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用者の皆様へ、お困りごとや、ご要望をお聞きし、ケアへ活かせるよう努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	親身になり対応できるよう努めている。時間をかけて、事前相談を聴けるよう努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に、お聞きしながら、その方に応じた介護サービス利用をご紹介している。当ホームの入居に関しても、必要に応じて権利擁護事業の活用、社会福祉協議会の福祉用具貸し出し紹介を行っている。		様々な介護・福祉サービスの種類や内容などを学び、アドバイスができるよう向上していきたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人や、ご家族にホームに来ていただいたり、時には、体験デイや一泊二日程度の体験入所(無料)をしていただいたこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の皆様と同じ場所で、同じ時を過ごし、食事を一緒にいただいたり、ソファで話をしたり、楽しんだり、教えていただいたりしている。		

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を密に行い、面会が難しいご家族は、電話や手紙などで報告している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご利用者の中には、同居～ホームでの入居と、ご家族と離れ離れになられた方も、逆に良い関係が築かれたかたも多くいらっしゃる。時には、外出や外泊をすすめたり、状況によっては、面会の間隔を空けていただいたり良い関係が築けるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊・面会はいつでも良いことを伝え、また、受診時など、なじみの方とお会いすることも多く、話がはずまれることもある。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	できるだけ、リビングで過ごしていただけるような配慮、テーブルの席等セッティングし、トラブルを抑えられるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても、敬老会にゲスト出演して下さったり、今後の方向性について相談があったりしている。一度御縁があった、ご利用者、ご家族の方には、最後までお世話させていただくという思いでつきあいをさせていただいている。		今後も、サービス利用が終了しても、何らか紹介や案内ができればありがたいと思う。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはご要望など尋ねている。また、プラン変更時など、その都度ご要望、ご意見を尋ねている。ミーティング、サービス担当者会議などにおいて、職員も把握できるように話している。		

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご利用者、ご家族様より今までの生活歴等お尋ねし、基本情報用紙に記入している。また、会話などの中からも、情報を得て、記入の追加等行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人や、ご家族、担当のケアマネージャーさんより、聴き取るようにしている。また、入居決定後は、職員にも伝達し、把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や、サービス担当者会議を利用し、モニタリングを行い、介護計画に反映している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。状態変化に応じ、介護計画の見直しを行って、ご家族に話をしている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個人日誌、体温表(バイタルサイン、食事量など)、排泄表、ケア表、受診日誌等に記録、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族と一緒に外出できない方は、個別に病院のお見舞いの付添い介助、大型スーパーへの買い物、喫茶等支援している。また、受診介助等も行っている。		

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの駐在所に協力をお願いしている。時々、当事業所へ来られ、入居者の状況をお知らせしている。民生委員さんも、入居者の方とお会いされている。		さらに、ボランティア等を受け入れ、オープンな事業所になれるよう努めていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	包括支援センターの職員さんや、他事業所との連携を図り、入居者の皆様にとって良い方向となるように支援している。		介護保険外のサービス(健康体操等)等も取り入れ、幅広く対応できるように努めていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターからの紹介もあり、困った方など積極的に受け入れをしている。また、権利擁護事業の利用ができるよう支援している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人やご家族の希望を聞き、受診の対応をしている。入居後の受診においても、ご家族に相談や、報告をしながら、必要に応じて専門外来等受診、訪問歯科受診などを行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居後、認知症の進行が著しく疑われる場合は、ご家族に報告した上で、専門医師への相談、受診をしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関、近医の医療機関など、以前からご利用者を知っている看護師さんがおられたり、気軽に話して下さる。臨機応変に対応して下さる。事業所でも、看護師を配置している。		

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、医師やご家族と情報交換を行い、長期間の入院で退居されても、回復後、当ホームへ入居できるよう、部屋の確保を行っている。ご家族にも安心されるよう話をしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族との協議の上、往診の打診や、急変時の場合など話をし、職員にも共有している。		ターミナルケアについての勉強会を行い、職員が落ち着いて対応できるようにしたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者の状況を職員に伝え、観察項目を周知し、急変時の場合などの対応を確かめている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族にはご本人が納得した上で入居される方が、なじみやすく、精神的ダメージも少ないのでお願いしている。安心して生活できるよう職員の声かけの配慮 努めている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや勉強会において、尊重、尊敬の意、プライバシー守など声かけや対応、態度等に気をつけるよう話している。		今後も排泄時や更衣時に十分気をつけ援助を行っていききたい。

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	要望や意見を取り入れ、食べたいものや、したいことできるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に、ゆったりと生活していただけるような配慮に努めている。バタバタとした対応が見られるときは、職員に助言をしたり、ミーティング等で話している。		あせらない、あわてない介護がなくなるように、職員の意識づけを深めていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族でお連れされる方もおられる。訪問理容では、入居者のご要望を取り入れ、好きなように散髪していただいている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、野菜そろえなどお手伝いしていただいている。干し柿作りのときに、包丁を上手に使われる入居者もいらっしまった。食事は入居者も職員も同じものを一緒に食べている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好を取り入れ、飲み物やおやつ等楽しめるよう買い物へ行ったり、提供している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをつかむためにも、排泄表に記入している。日中はトイレで排泄ができるよう誘導している。		

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に一回の入浴の支援をしている。汗をかいたとき、入居前に長くお風呂に入られていない方はしばらく毎日入っていただくよう支援している。便の汚染時など、その時の状況などでも対応している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なかなか眠れない方は、リビングで一緒にお茶をし、穏やかな時を過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	飼育のお手伝いをされる入居者もいらっしゃる。包丁使いが器用な方もいらっしゃる。ご本人の要望や力が活かせるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しの金額でも、お金を所持管理することによって、安心される方もいらっしゃる。買い物時は、預かり金を少し持って、支払えるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外を眺めれば安心される方、買い物、近所のお店に行ったり、お宮参り等支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族との外出が難しい方に、遠方へのドライブ等個別の対応もできた。		入居者全員、個別に行くことは難しいが、何か少しずつ花を見に行ったりというような計画をたてていきたい。

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の差し支えが無い限りは、自由に電話できるようにしている。手紙を送られる入居者もいらっしゃる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はしていない。面会時は面会簿記入していただいている。ゆっくり話せるように、お茶等を準備し居室で過ごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加、身体拘束に関する勉強会を行い周知徹底している。身体拘束、心の拘束をしないよう話をしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけていない。安全の為に夜間は遅出が退社して、鍵を閉めるようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時は必ずノックをして、驚かせないように配慮、話をしている。朝の清掃時、10時・15時のおやつ時、食事時・一日3回の検温時、トイレ誘導時間など所在確認をし、随時見守りを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	部屋で自分のものを持っている方もいらっしゃる。個別に呼び、職員で預かっている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルや関連する資料をいつでも見れるようファイルしている。ヒヤリハット、事故報告書記入。ミーティングで話し合いをしている。		職員皆、知識の向上、対応など学習できる機会を設けていきたい。

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や心肺蘇生法などの勉強会をした。救命士からの講習を12月に予定している。		12月に全員習得できない職員もいるので、市政たより等で確認し参加していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練の中で避難や消火訓練を行い、助言等いただいた。		自主的な訓練も行っていき、地域の方の協力もいただきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて、面会時や介護計画説明時に話し、一緒に対策を考えている。また、医師より助言等得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の血圧、1日3回の検温を実施。異常がある方は、看護師が再度測定、状況判断し診察介助をしている。また、申し送り帳にも記録。全員把握できるように努めている。		申し送り帳だけではなく、口頭での伝達を合わせて、全員が把握できるよう今後も努めていきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬ケース(引き出し)があり、正確に介助できるようシートに貼っている。薬の内容を記したものを一緒にしている。		薬についての勉強会を行い、全員の知識の向上に努めたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についての勉強会を実施。水分補給介助に努めている。牛乳やヨーグルト 個人個人で配達していただいている方もいらっしゃる。		今後も排便シートには便の性状や量など記載に努め、申し送り徹底するよう努めたい。

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア声かけ、支援。歯磨き法など、歯科医から助言いただいている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の確認。摂取が少ないときは、好きなおやつや飲み物等で補給している。時間を置いて声かけや提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル、資料等ファイルしていつでも見れるようにしている。インフルエンザ予防接種 入居者、職員実施。ペーパータオル使用。アルコール消毒の実施。		より事業所独自の具体的なものになるよう整備していきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事当番以外は調理しないように決めている。ペーパータオル使用。アルコール消毒の実施。定期的なハイター消毒。食材は前日や当日朝一番に買うようにしている。在庫チェック実施。食中毒予防講習会への参加実施。勉強会を行った。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植えている。畑もあり、ダイコン、キャベツ、グリーンピース等、成長が楽しみである。		雑然としているので、外の整備にも取り組んでいきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや、音楽、職員の声のトーンなど、不快感を与えないようにミーティングや個別に助言等している。		

グループホーム あおきの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや、テーブルで過ごされる方、自室でゆっくり他の入居者と過ごされる方さまざまである。玄関に椅子があるので座って景色を眺められる方もいらっしゃる。鶏小屋の前のベランダで、野菜をそろえたりする光景もみられる。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中のものすべてご本人、ご家族の持ち込みである。以前から使われているもので良い事を見学時に説明している。ご仏壇を置かれ、毎日炊きたてのご飯をお供えされるかたもいらっしゃる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋の換気に努めている。冷暖房使用時は温度を見ながら、設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、トイレ、浴室、脱衣所に手すりを設置している。また、玄関前にはスロープ、手すりつきを設置、リハビリも行える。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱時には、職員も落ち着いて対応するよう努めている。ゴミや落ち葉など気になる入居者もいらっしゃるなので、さりげなく対応している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑をつくったり、花を一緒に生けたり、鶏の世話等活动ができるよう支援している。		

グループホーム あおきの里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム あおきの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム あおきの里は、どなたでもご利用していただけるように低料金で提供させていただいています。高齢者を支えられている方は団塊世代の方が大勢いらっしゃいます。ご家族の方の経済的なご負担を軽くしたいという思いもあり、真心のこもった介護サービス・日本一？低料金で、地域の皆様に喜んでいただけるようなホームに努めています。押し花作り・書道等 職員も自分の得意としているものを、入居者の皆様と一緒に取り組んでいます。畑も作っていますが、ご近所やご家族から、新鮮な野菜をいただいております。うこっけい(鶏)を飼育しており、成長を楽しみにしています。